



◆第5回 関川・保倉川治水対策検討部会を 開催しました。

【第5回 関川・保倉川治水対策検討部会 開催報告】

関川水系保倉川下流部における治水対策案の検討の進め方について、有識者より指導・助言をいただきました。

開催内容

- 開催日時： 令和5年10月31日(火) 14時00分～16時00分
開催場所： 上越文化会館 中ホール (Web会議併用)
内 容： ●関川・保倉川治水対策検討部会規約改正について
●関川水系保倉川下流部における治水対策案の検討の進め方
●関川・保倉川治水対策検討部会の検討経緯
●前回検討部会からの進捗状況について
●関川水系保倉川下流部における治水対策案について

委員名簿

| 氏名 | 所属・役職等 | 備考 |
|--------|------------------------------------|-------|
| 小池 俊雄 | 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長 | 部会長 |
| 細山田 得三 | 長岡技術科学大学 教授 | 副部会長 |
| 松川 寿也 | 長岡技術科学大学 准教授 | ご欠席 |
| 森井 俊廣 | 新潟大学 名誉教授 | |
| 八木 智学 | 上越市 副市長 | |
| 安田 浩保 | 新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授 研究推進機構 研究教授 | Web参加 |

※報道関係：新聞社等 7社 一般傍聴：24名

敬称略：五十音順

検討部会の様子



会場全体



小池部会長挨拶



事務局挨拶



検討部会開催状況

検討部会での検討の進め方

H27.5 「関川・保倉川治水対策検討部会」を設立

H29.5 「放水路案」が他案と比較して優位との検討結果



H29.7 「第19回関川流域委員会」へ検討結果を報告



R5.7 「気候変動を踏まえた基準地点松本の目標流量」を1,700m³/s、このうち放水路流量を900 m³/s に引き上げる案について第24回関川流域委員会で審議

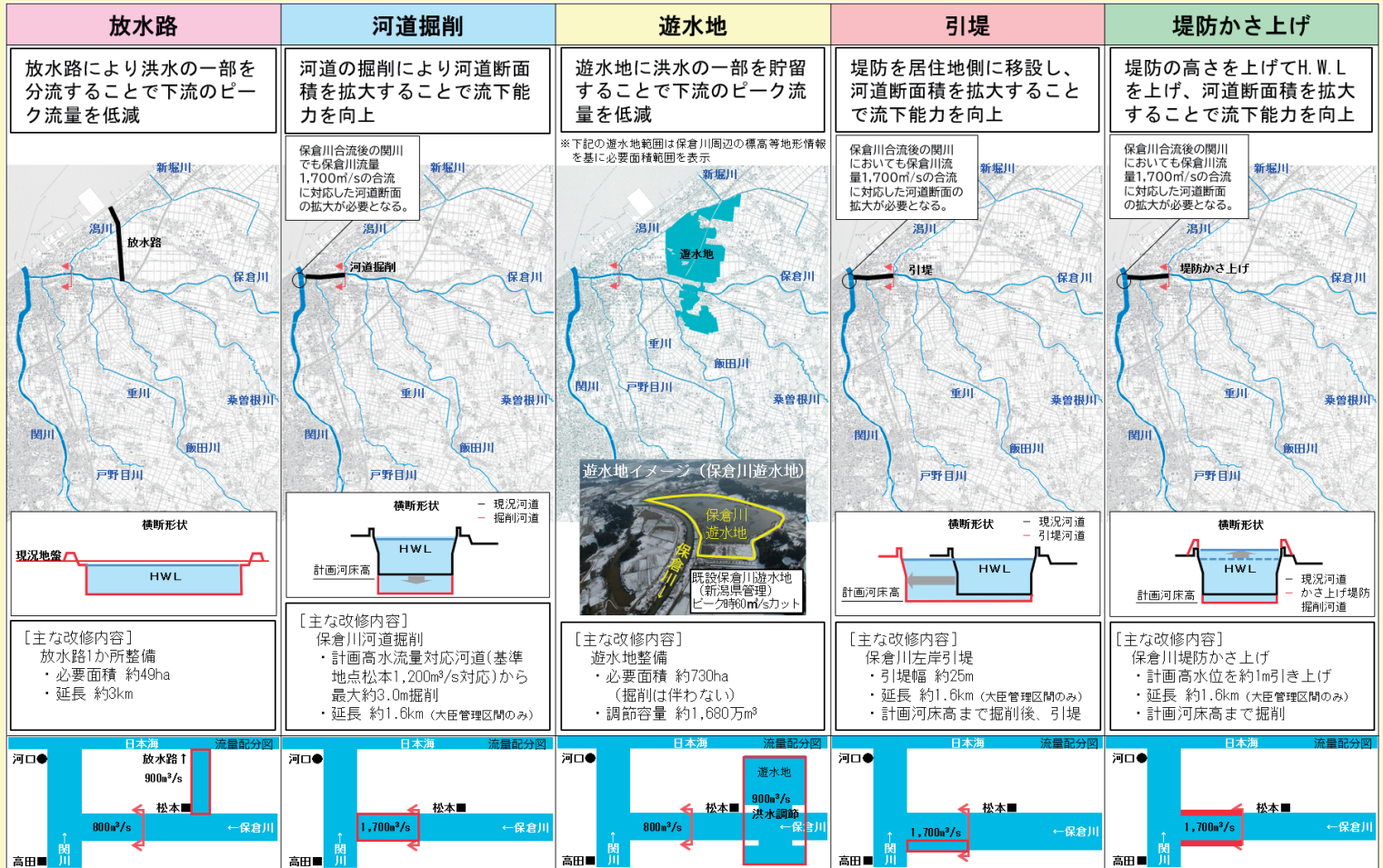


R5.10 上記の目標流量の引き上げに伴い、治水対策検討部会で新たな目標流量における保倉川下流部の治水対策案について審議

→裏面に続きます。

【関川水系保倉川下流部における治水対策案】

保倉川流域において適応性があると評価した治水対策案(5案)について、検討部会でご審議いただきました。



【委員からの主なご意見】

- 30年後までに、気候変動考慮した1.1倍を超える雨が降る可能性は十分ある。「流域治水」への転換、これは河川整備計画ができる30年を待たなくて今からもできる。川っちゅ！第21号参照
- 遊水地は大体が広大な面積が要るものなので、遊水地により潰してはいけない場所を潰してしまうなどの面積以外の理由を記載するべき。
- 評価軸の柔軟性について「変更計画よりもさらに対象流量が増加した場合」という説明にした方が良い。
- 今後、土木だけではない技術分野との融合ができた場合に、洪水時の川の振る舞いというものの理解が一気に上がる可能性があり、それができることがもう一つの流域治水の本当の完成だと考える。

【今後の流れ】

今回の検討部会でいただいたご意見を踏まえ、第25回関川流域委員会にて計画段階評価の審議を行います。

